

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 区内に咲く「アンネのバラ」を支える活動

今から40年以上前、高井戸中学校にアンネ・フランクゆかりのバラが寄贈されました。生徒たちが「アンネの日記」を読み、アンネの父に宛てて文集を送ったことがきっかけでした。はじめは3本だった苗は、学校、生徒、地域の協力組織「アンネのバラ・サポーターズ」の熱心な手入れのおかげで、今や花壇いっぱい美しい花々を咲かせるまでに成長しました。毎年5月と10月には一般公開をしており、来校した多くの方々の目を喜ばせています。

「アンネのバラ」は現在、高井戸中学校から中央図書館、杉並清掃工場などの施設にも株分けされ、さまざまな場所で見られるようになりました。杉並清掃工場（高井戸東3-7-6）には、29年の工場リニューアルに際し、地域の方から「アンネのバラを植えたい」という申し出

があり、工場と地域の協働のシンボルとしてバラの花壇が作られました。同時に「アンネ・ロザリアンの会」というボランティア団体も発足。約15名のメンバーが工場の職員と協力して「アンネのバラ」を育て、工場のイベントなどにも協力しています。平和のシンボルを育て平和を願う区民の活動が、これからも受け継がれていくことに期待したいですね。

すぎなみ学倶楽部では、「アンネのバラ」が高井戸中学校に来るまでの詳しい経緯や関係者の証言、杉並清掃工場のバラの様子などを紹介しています。ぜひご覧ください。同もなく春のバラの季節、今年もたくさんの人々による善意の結晶「アンネのバラ」が咲き香るのが楽しみです。（育）



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶歴史▶【証言集】アンネのバラ 咲かせ続ける平和の願い



▶文化・雑学▶杉並のさまざまな施設▶杉並清掃工場



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

# すぎなみ学倶楽部



## 10周年を迎えた劇場「座・高円寺」

高円寺駅北口から徒歩5分ほどのところにあり、テントのようなユニークな外観が目を引く「座・高円寺」(高円寺北2-1-2)。平成21年に区の公共劇場としてオープンし、今年で10周年を迎えました。館内には機能が異なる3つのホールと、戯曲などの資料を収集・保存する演劇資料室、絵本を自由に楽しめるカフェ「アンリ・ファブル」などがあり、演劇ファンだけでなく地域の人々にも親しまれています。

建物は世界的に有名な建築家である伊東豊雄氏が設計しました。関係者によると、伊東氏が「演劇のエネルギーを囲い込む力強い芝居小屋」をイメージし、鋼鉄の強さの中にも美しい曲線を描く屋根、内部には、地下2階から地上2階まで続く吹き抜け状のらせん階段や、丸窓とライティングによって作り出される木漏れ

日に似た光など、ダイナミックな構造と意匠が施されています。

今年は10周年を記念して、いつものプログラムに一味添えた華やかなラインアップが予定されています。地下2階の「Galleryアソビバ」では、普段見ることができない舞台のスケッチ画や衣装、模型などを6月2日まで展示しているので、この機会に訪ねてみてはいかがでしょうか。

すぎなみ学倶楽部では、このほかにも、ドラマの撮影に使われることもある「浴風会本館」や、昭和初期の下宿の面影を残す「西郊ロッヂング」など、区内の魅力的な建築物を紹介しています。気になる建物の歴史や見どころをサイトで検索して、うららかな陽気の中、見物に出掛けませんか。(西)



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

- ▶ 文化・雑学 ▶ 杉並の景観を彩る建築物
- ▶ 座・高円寺



☎産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 角田光代さん「西荻窪を<sup>っい</sup>終のすみかに決めました」

杉並で約30年にわたり執筆活動をしている直木賞作家・角田光代さん。映画にもなった「八日目の蟬」や「紙の月」など、人気小説を多数執筆し、読者を魅了し続けています。

南阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪と区内沿線に移り住み、「人生の半分以上、杉並で暮らしています」と話す角田さん。とりわけ現在住んでいる西荻窪は個人商店が多いところが好んで、なじみの総菜屋さんや和菓子屋さん、居酒屋さんもあるそうです。「輪島功一スポーツジム」でのボクシング、善福寺公園や善福寺川沿いでのジョギングと、スポーツをするのも西荻窪が中心。「これからもずっと住み続けようと思っています」と浮かべる笑顔に、深い西荻窪愛が感じられます。

平成18年に発行された短編集「ドラママチ」は、高

円寺や阿佐谷など中央線沿線の町が舞台。「中央線沿いには、個性ある喫茶店がたくさんあるという話から、一話に一つ喫茶店が登場する小説にしようということになりました。閉店したところもありますが、実在するすてきな店なので、散策しながら探してみてください」と、楽しみ方を教えてくれました。また、平成27年からは「源氏物語」の現代語訳に全力投球中。人間の複雑な感情を描き出す角田さんが「源氏物語」をどのように解釈するか、完結が待ち遠しいですね。

すぎなみ学倶楽部の著名人コーナーでは、区内ゆかりの作家たちに、杉並での暮らしや創作活動について伺っています。作品が生まれた背景を知ると、物語の世界をより楽しめるかもしれません。(育)



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ ゆかりの人々 ▶ 著名人に聞く 私と杉並 ▶ 角田光代さん



▶ 文化・雑学 ▶ 読書のススメー杉並ゆかりの本 ▶ ドラママチ



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

# すぎなみ学倶楽部



## 杉並区の防災対策を知り、水害から身を守ろう

いよいよ夏休みですね。台風など自然災害が増えるこの時期に、家族で防災について考えてみませんか？

妙正寺川、善福寺川、神田川と、3つの川が流れる杉並で、災害といってまず思い浮かぶのは水害ではないでしょうか。平成30年8月のゲリラ豪雨で阿佐ヶ谷駅や久我山駅付近が浸水したのも、記憶に新しいところです。

区は31年4月に、「わが家の水害ハザードマップ」という、水害に関する情報をまとめた地図を発行しました。近年の降雨状況を反映した浸水予想区域図や、区内に22カ所ある避難所の場所が分かるほか、各自の行動計画（マイタイムライン）を記入できる欄などがあります。日頃から確認しておけば、いざという時に慌てず行動できて安心ですね。この地図は区役所や区民事務所で配布しており、区ホームページからもダウンロードできます。

水害への備えはハード面でも進んでいます。その一つが、環状七号線の地下にある「神田川・環状七号線地下調節池」。東京都によって、約20年かけて妙正寺川～神田川間に整備され、平成20年3月に完成しました。延長4.5km、内径12.5mの巨大なトンネル内に、総量54万 $\text{m}^3$ （25mプール約1800杯分）もの水を取り入れることが可能で、それまで梅雨や台風などの集中豪雨でたびたび発生した浸水被害が軽減されました。施設内には運転操作や監視制御を行う管理棟があり、ひとたび大雨注意報が発表されると職員が緊急出動します。杉並の地下深くで、私たちを水害から守ってくれているのは心強い限りです。

すぎなみ学倶楽部では、杉並区の防災についての最新情報を掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。（雪）



杉並の地下に  
巨大なトンネルがっ！

▲神田川・環状七号線地下調節池

すぎなみ学倶楽部  
ホームページ

▶特集▶災害・防災



国産産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 台湾でも熱演！東京高円寺阿波おどり

多くの人でにぎわった「阿佐谷七夕まつり」に続き、杉並のもう一つの夏の風物詩、「東京高円寺阿波おどり」が8月24日(土)・25日(日)に行われます。昭和32年に、地元商店街の青年部が七夕まつりに対抗するために開催してから今年で63回目。当初は「高円寺ばか踊り」という名前で、参加者38人、観客2000人ほどの規模でしたが、現在は8カ所の演舞場で2日間を通して延べ約1万人の踊り手が踊り、見物客100万人あまりを動員する大イベントへと成長しました。

その熱気は、今や8月の高円寺だけにとどまりません。NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会は、地域の文化を海外に発信していくために、平成27年から、区の交流自治体である台北市（台湾）でも2年ごとに公演を行っています。今年4月の公演には、高

円寺から160人の踊り手やおはやしが現地に向かい、「国立台湾戯曲学院」の舞台や歴史ある寺院などで演舞を披露しました。どの会場にもたくさんの見物客が集まり、たおやかな女踊りと威勢のいい男踊りに拍手や歓声が送られました。また、三味線、大太鼓の鳴り物体験や手拭いの結び方を楽しんでもらう体験型イベントも好評を博しました。阿波おどりを通じて台湾の人たちに日本の文化や高円寺に興味を持ってもらえると嬉しいですね。

秋以降も、区内では「荻窪音楽祭」や「トロールの森」「すぎなみフェスタ」などのイベントがめじろ押しです。すぎなみ学倶楽部のイベントコーナーで見どころや楽しみ方を紹介していますので、ぜひお出掛けの参考にしてください。

(西)



◎東京高円寺阿波おどり

すぎなみ学倶楽部  
ホームページ

▶文化・雑学▶杉並  
のイベント▶東京高  
円寺阿波おどり



産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

# すぎなみ学倶楽部



## 大人も子どもも全力でプレー！ 杉並のラグビー

ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下、「日本大会」）が、9月20日に開幕します。大会の公式キャッチコピーは「4年に一度じゃない。一生に一度だ。-ONCE IN A LIFETIME-」。世界トップクラスの選手たちのプレーを日本で見るができるチャンスですね。

杉並区ラグビーフットボール協会会長の中村明彦さんは杉並区のラグビー事情について、「高等学校の強いチームがあり、ラグビースクールも2つあります」と話します。

昭和8年、全国大会に初出場した日本大学第二中学校・高等学校をはじめ、ラグビー部のある区内の高等学校4校は、いずれも全国大会出場を果たしています。また、1つの区に2つのラグビースクールがあるのは杉並だけで、年に数回開催される「杉並こどもラグビー教室」も気軽にラグビーを体験できると人気があります。子どもから大

人まで多くの愛好家がいる杉並のラグビーが、この日本大会を機にさらに活気づいていくことが期待されます。

中村さんは、区内にある病院の院長で、日本大会期間中は医療関係の責任者を務めます。「選手が安全にプレーできるかどうかは、その後の人生にも影響します。日本大会では28台のカメラがあらゆる方向からグラウンドを映していますので、選手の異変やけがを見逃さないようにします」と、意気込みを語ってくれました。

すぎなみ学倶楽部では、中村さんから伺ったラグビードクターたちの活躍や、國學院大學久我山中学高等学校ラグビー部、早稲田大学ラグビー蹴球部など区ゆかりのチームについて紹介しています。選手や監督、ラグビードクターたちのラグビーにかける熱い思いを知れば、ラグビーへの興味がますます膨らむのではないのでしょうか。（西）



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶スポーツ▶ラグビー



▶ゆかりの人々▶スポーツに携わる▶中村明彦さん



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 駅ごとの個性や見どころを紹介！まち別ダイジェスト

歴史や著名人、グルメなど、杉並の魅力を多角的に紹介するウェブサイト「すぎなみ学倶楽部」に、「まち別ダイジェスト」コーナーができました。駅を中心に区内を23に分け、エリアごとにまちの個性や見どころ、イベント、地元商店街などの情報をまとめて紹介しています。

杉並区に長く住んでいる方でも、住んでいる地域や普段利用する路線以外のまちについては、案外知らないこともあるのではないのでしょうか。例えば高円寺は、若者のまちというイメージがありますが、駅から少し離れると閑静な住宅街が広がり、寺院が点在しています。村上春樹の小説「1Q84」の舞台とされる「高円寺中央公園」や、JR中央線高円寺駅南側を東西1600mにわたって連なる「桃園川緑道」など、子どもと一緒

に遊べる公園も多く、ファミリー層にも人気です。

また、京王井の頭線富士見ヶ丘駅には、西側に「富士見ヶ丘検車区」があり、留め置かれているカラフルな車両が並んでいる姿を、駅のホームや線路脇のフェンスの外から同近に見ることができます。駅から徒歩8分ほどのところにある「社会福祉法人浴風会」では、映画やドラマのロケに使用されることもあるモダンな建物を眺めながら、敷地内の散策が楽しめます。

順次公開していきますので、気になるまちの情報をチェックして、新たな発見をしてみませんか。ほかにも、杉並区統計書を基に作成した「産業の事業所数」「年齢別人口」などのデータも掲載しており、その地域の特徴を知ることができます。

(西)



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ まち別検索 ▶ まち別ダイジェスト



産業振興センター観光係 ☎5347-9184

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

# すぎなみ学倶楽部



## 心にしみる杉並の紅葉

日の入りがすっかり早くなり、秋も終盤。あちこちで色付いた木々を見掛ける季節になりました。そこで紅葉の観賞や撮影におすすめの区内のスポットを紹介します。

荻窪にある大田黒公園は、音楽評論家の大田黒元雄氏の屋敷跡に整備された日本庭園で、数寄屋造りの茶室やあずまや、中庭から池へ注ぐ水の流れ、ナラやケヤキなどの巨木が織りなす和の風景を楽しめます。毎年、紅葉シーズンには多くの人を訪れます。ライトアップの期間中は庭園の水鏡に映る紅葉とあずまやを一緒にカメラに収めることができる場所が人気の撮影スポットになっており、眼前にいつまでも眺めていたくなるような美しい秋景が広がります。今年のライトアップは、11月22日(金)～12月1日(日)で、24日(日)には琴のコンサート

も開催されます(雨天時は12月1日(日)に延期)。

次に紹介するのは、今川にある戦国大名今川氏のゆかりの寺院として知られる観泉寺。静かなたたずまいの本堂や観音堂、樹齢80年を超える枝垂桜、竹林などに京都のような風情が感じられると評判で、歴史ファンのみならず参拝者が多い寺院です。昨年秋に、近隣の企業や団体などが協力し、「今川紅灯路in観泉寺」と題したライトアップイベントが初めて開催され、悠々とたたずむ寺と紅葉が生み出す情緒ある景色を、約2500人が楽しみました。今年は11月23日(祝)・24日(日)に開催されます。

すぎなみ学倶楽部では、区内の公園や寺社、歴史、自然などを紹介しています。紅葉を観賞しながら歴史や背景に思いをはせたいですね。自分だけの小さな秋を見つけに出掛けてみませんか。(雪)



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶特集▶公園に行こう▶区立大田黒公園

▶文化・雑学▶杉並の寺社▶観泉寺



他の記事もご覧ください

すぎなみ学 🔍



毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。/

# すぎなみ学倶楽部



## 五輪イヤー目前！ご近所スポーツのすすめ

いよいよ来年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。この機会に、観戦だけではなく、スポーツにチャレンジしてみませんか。

杉並には気軽に利用できる区立体育館が6カ所あり、中でも最も規模の大きい施設が上井草スポーツセンターです。かつてこの場所には、プロ野球や大学野球に使われた上井草球場がありましたが、昭和39年に上井草給水所配水池に姿を変え、その3年後、今の施設の前身となる上井草総合運動場が配水池の上に造成されたという歴史があります。平成10年に開設した現在のメイン施設の一つは、面積2万4945㎡の広さを誇る人工芝グラウンドです。周囲は1周650mのジョギング・ウォーキングコースになっており、朝6時から利用できます。同センター主催の教室も種類豊富で、健康体操、ヨガ、ダンス、FC

東京普及部所属コーチが指導するサッカー教室など、子どもから高齢者まで楽しめます。

また、区立の屋内温水プールは4カ所あり、夏だけでなく、一年を通して楽しめます。平成26年にオープンした大宮前体育館は、バリアフリーの配慮が行き届いたスタイリッシュな施設です。健康増進プールと幼児プールは床が柔らかく滑らない素材のため、安心して利用できます。併設のジャグジーでリフレッシュするのもおすすめです。

すぎなみ学倶楽部では、杉並のスポーツ施設の歴史や特徴などを紹介しています。永福体育館がイタリアビーチバレーボールチームの東京2020オリンピック事前キャンプ地として利用されるのも、うれしいニュース。皆さんも身近な施設を上手に活用して、来年は「スポーツを楽しむ一年」にしましょう。(夏)



昔は、プロ野球にも使われる上井草球場があったんだね

写真提供：上井草スポーツセンター

### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶文化・雑学▶杉並のさまざまな施設▶上井草スポーツセンター



▶文化・雑学▶杉並のさまざまな施設▶大宮前体育館



他の記事もご覧ください

すぎなみ学 🔍

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 荻窪で制作に励んだ版画界の巨匠・棟方志功さん

棟方志功さんは、「ヴェネツィア・ビエンナーレ」で国際版画大賞（グランプリ）を受賞するなど、世界的な評価を得た版画家です。戦後、疎開先から引越した荻窪のアトリエで、精力的に制作に励みました。荻窪駅前商店会を飾る金太郎の絵のフラッグも、棟方さんが手掛けた作品を元に作られています。

棟方さんが疎開先から東京に戻る支援をしたのは、荻窪の「いづみ工芸店」の創業者、山口泉さんでした。後援会を結成し支援金を募った時の台帳「志功帖」が、今も残っています。泉さんの息子で現店主の浩志さんは、自宅に棟方さんが滞在したことを覚えており、日照りが続いた時に棟方さんが雨乞いをして雨が降ったという、幼い頃の不思議な体験を聞かせてくれました。

棟方さんのお孫さんで、棟方志功研究家でもある石井頼子さんは、小学校2年から中学校2年まで荻窪の家で同居していました。「人気が出て非常に忙しくなりましたが、棟方は仕事の依頼をほとんど断りません。祖父が仕事に集中できるよう、人払いをするなどの役割は祖母のチャヤが担っていました」と、当時を振り返ります。

すぎなみ学倶楽部では、棟方さんをはじめ、漫画「のらくろ」の作者である田河水泡さんや日本のアンデルセンと呼ばれている童話作家の小川未明さんなど、区にゆかりのある文化人を紹介しています。家族や関係者へのインタビューで得た貴重な証言からは、意外な素顔も知ることができます。ぜひご覧ください。

(育)



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ ゆかりの人々 ▶ 杉並を駆け抜けた人々 ▶ 棟方志功さん



▶ 産業・商業 ▶ 老舗企業・老舗商店 ▶ いづみ工芸店



他の記事もご覧ください

すぎなみ学 🔍

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 杉並区の隠れキャラクター、金太郎と道路の動物たち

「あれ、こんなところに金太郎の看板？」「道路にある動物の絵はなんだろう？」と思ったことはありませんか。区内で見られるこれらのキャラクター（右写真）は、昭和40年代後半～50年代に登場しました。

熊に乗った金太郎の絵は、河川や水路にふたをして道路にした場所に重量のある車が進入するのを防ぐための車止めに描かれています。子どもの遊び場を兼ねていた所もあり、昔話を知るきっかけにと、金太郎の絵柄が採用されたといわれています。残念ながら道路改修などに伴い次第に姿を消していますが、金太郎愛好家たちの調べでは、1月時点で、区内に56カ所あることが確認されています。

道路上の動物の絵は、子どもの飛び出し事故を防

ぐための路面ステッカーで、多くは「とまれ」という文字と一緒に設置されています。基本の絵柄は、パンダ、ライオン（正面、横）、イルカ、ワニの5種類で、当初採用された絵柄も、数少ないながらもまだ残っています。平成30年には、杉並区公式アニメキャラクター「なみすけ」と「ナミー」を使用した絵柄も登場し、小学校の校門前に実験的に設置されています。

どこか懐かしいレトロ感漂う金太郎と動物たち。最近では、メディアで取り上げられる機会も増えて注目されているようです。すぎなみ学倶楽部の「杉並のキャラクター」コーナーでは、なみすけ・ナミーやその他の区内にあるキャラクターのプロフィールを紹介しています。皆さんもぜひ探してみてくださいね。

（涼）



### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ 文化・雑学 ▶ 杉並のキャラクター



他の記事もご覧ください

すぎなみ学 🔍

毎月15日号は「すぎなみ学倶楽部」からちょっといい話をお届けします。

# すぎなみ学倶楽部



## 近場でまったり、ファミリーにおすすめのお花見スポット

お花見シーズンはもう間近。杉並には善福寺川緑地や大宮八幡宮など、桜の名所がいろいろとありますが、今回は区内でまったり過ごせるファミリー向けのスポットを2カ所紹介します。

一つ目は玉川上水第二公園・第三公園。江戸の町に飲料水を供給するために造られた玉川上水が、昭和中期に一部暗渠となり、その後公園等へと整備されました。最寄りの桜上水駅の駅名は、玉川上水の堤にあった桜並木に由来するといわれています。お勧めのお花見ポイントは、桜の真下に遊具が設置されている場所で、桜吹雪の中で楽しく遊べます。

二つ目は馬橋公園。高円寺駅と阿佐ヶ谷駅の中間に位置し、地域の人々の憩いの場として親しまれています。この場所は、昭和55年に気象庁気象研究所が移転した

跡地に造られた公園で、個性的な6つの広場で構成されています。お勧めのお花見ポイントは、池の水面に映る桜の美しさが魅力の水辺の広場です。隣接する馬橋小学校の桜と合わせて付近を散歩しながら、ファミリーで楽しむのに最適です。

すぎなみ学倶楽部の「お花見コーナー」では、区内の身近な公園や、妙正寺川、神田川、善福寺川沿いなど、お花見ポイントを20カ所以上掲載し、随時更新しています。家族やグループでのお花見や、川沿いの桜並木を見ながらの散歩、寺社の桜まつり見物など、目的に合わせてご活用ください。また「写真検索コーナー」では、区内で撮影された250枚を超える桜の写真が見られます。

春の陽気に誘われて散策に出掛けると、意外な場所で桜の花に出会えるかもしれませんね。(夏)



▲馬橋公園

### すぎなみ学倶楽部ホームページ

▶ 特集 ▶ お花見ポイント



他の記事もご覧ください

すぎなみ学 🔍